

書館で気づいた事やこんなことができたらいいなとかどんな些細なことでもどんどん図書館に提案してみてください。一人一人が参加しているという意識があればきっとよい図書館ができると思います。

ある本に「図書館のある国は平和な国である」と書かれていました。私たち図書館員は学生や図書館を利用するすべての人が図書館を活用できるようにお手伝いをし、この言葉に共感してもらえるように努力していかなければと思っています。

「魅力ある図書館」

収書・整理課 出田 善明

情報ネットワークが発達し、利用者が意識せずにその情報ネットワークを利用するといういわゆるユビキタス社会が実現しつつあるように社会が変化している今、大学図書館もまたそのあり方を問われています。これまでは主に紙でできた本の所蔵を目的としたものでした。しかし電子ジャーナルやデータベースに見られるように本の形態が変わってきています。利用者の図書館離れや本離れが言われていることもあり最近ではサービスやそれら資料が持つ情報をどのようにして提供していくかということに重点が置かれています。

しかし環境がいくら変化しようと、利用者自らの意思で図書館を利用して知識を増やしたいと思えるようなサービスを提供することが大切だと思います。

利用者自らの意思で図書館を利用してもらうためには、まず利用者の要望を知る必要があります。図書館では基礎ゼミ対象図書ガイド、学生選書の会、データベース体験講座など様々なイベントを催しています。さらに本の種類、蔵書検索端末の数や位置、書架のレイアウト、職員の対応や図書館の規則など、利用者が直接関わる要素がたくさんありますが、

すべて具体的な意見を集めることが大切です。そうすることで利用者の要望が明確になり、実現のための改善点などがはっきりとします。

現在、要望を集める手段として定期的にアンケートが実施されています。先に記述したことを実現させるためにはアンケートの内容を今よりもっと具体的なものに変える必要があると思います。またアンケートの配布場所も意見をいただきたい方が集まる場所など範囲を考慮することでより様々な意見をいただくことができると思います。そして、現在はそのアンケートを集計して担当職員で回覧、意見交換がされていますが、残念なことになかなか意見がまとまっていないように思います。よって迅速に良い意見をまとめ、利用者フィードバックするためにはある程度人数を絞ったり、もしくは担当外職員を招いたりするなどして分析を行う専門のチームを作る必要があると思います。

しかし、これらの方法は現在の本学図書館の魅力を高めるものです。10年、20年、その先も考えないといけません。利用者の利用意欲を掻き立てる方法はそれぞれの時代で異なってきますが、本の持つ情報はこれからも変わりません。さらに良い本と呼ばれるものは10年、20年経っても評価され必ず需要があります。つまり10年、20年、長く魅力を保つ方法の一つとしてそれら良い本を所蔵することが考えられます。これを実現させるためにはその本をよく知る人物に意見をいただくことが一番だと思います。教員、学生、事務員、一般企業の会社員や公務員、つまり大学内だけでなくもっと広い範囲、分野の方々に意見をいただくことで本当に良い本を選ぶことができると思います。

常に環境は変化し、その時その時代に必要とされるものは異なります。しかしその本質はいつの時代も変わらないと思います。利用者のためを思い、利用者が成長するそのお手伝いをすることが図書館員の役割だと考えます。